

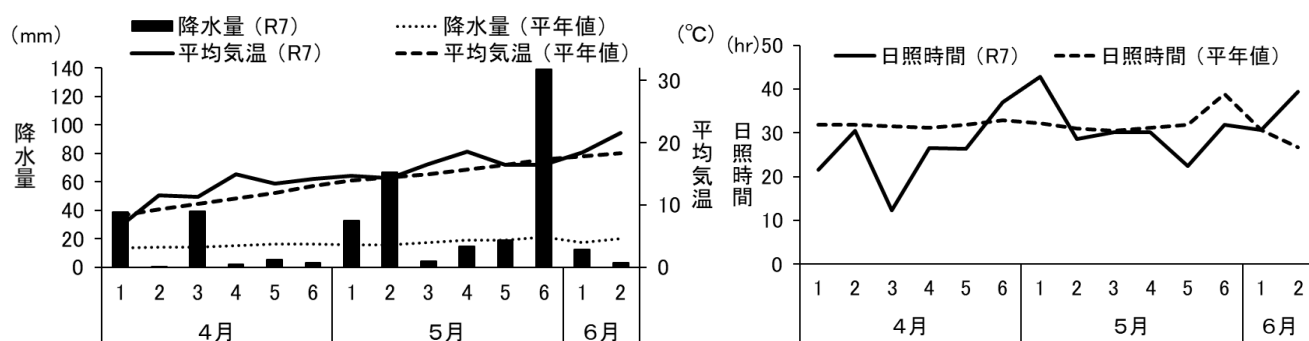
仙台稲作情報 2025 (第2号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

○栽培管理のポイント

- ▷適正な水管理で分げつの発生を促進させましょう。
- ▷雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう。
- ▷いもち病の発生源となる補植用残苗は速やかに処分しましょう。

1 気象経過 (仙台 令和7年4月第1半旬～6月第2半旬)



- ・4月の平均気温は平年より高く推移しました。5月は中旬が平年より高かったものの、上旬は平年並、下旬は平年並から低く推移しました。
- ・4月から5月にかけて降水量は平年より多く推移しました。
- ・4月から5月にかけて日照時間は平年より概ね少なく推移しました。

2 管内の播種及び田植状況

表1 管内の播種及び田植状況

管内全体	播種状況			田植状況		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
本年	4/4	4/12	4/21	5/5	5/11	5/24
前年差	2日早い	1日遅い	1日遅い	2日遅い	前年並	1日遅い

※「始期」は作付見込み面積の5%、「盛期」は50%、「終期」は95%が進行した時期

3 管内の生育状況（ひとめぼれ）

- ・管内平均で草丈が26.2 cm（前年比82%、平年比92%）で平年よりやや低く、茎数が119本/m²（前年比79%、平年比77%）で平年より少ない状況となっています。葉色は35.0（前年差-3.8、平年差-1.9）で平年より低いです。日照時間が少なかったことや、気温が一時的に低かったことが影響していると考えられます。茎数が少ないほ場では、下記の水管理を参考に分げつの増加に努めてください。

表2 6月10日生育調査結果（管内）

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/22	28	74	89	98.0	151	110	29.7	-6.0	-4.2
	北部平坦	大郷町鶯崎	5/18	27.5	104	108	114.0	48	52	36.5	-5.3	-3.2
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	23.1	-	-	145.0	-	-	38.7	-	-
	管内平均			26.2	82	92	119.0	79	77	35.0	-3.8	-1.9
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/13	30.3	102	104	157.3	145	128	40.1	+5.3	+4.7
にじのきらめき	北部平坦	大郷町土橋	5/22	27.0	-	-	109.6	-	-	31.4	-	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。仙台市泉区ひとめぼれ、大郷町土橋にじのきらめきは、今年から調査しているため平年値なし。

表3 品種別生育調査結果（県内）

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)		
	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	29.5	107	110	162	101	94	37.0	-1.3	-0.6
ササニシキ	26.9	99	102	179	113	87	36.2	+0.9	+0.2
つや姫	27.6	94	100	162	86	94	36.2	-0.3	-0.7

※県内 32 地点（ひとめぼれ 18 地点、ササニシキ 6 地点、つや姫 8 地点 古川農業試験場の作況試験ほ3地点、仙台4地点含む）の平均値

4 本田管理

移植栽培

（1）水管理

- ・分げつの発生を促進させるために低温時以外は2～3cmの浅水として水温・地温の上昇を図りましょう。
- ・「だて正夢」、「金のいぶき」は、茎数が確保しにくい品種です。適正な水管理で分げつを促進させましょう。
- ・低温（平均気温が概ね14℃以下）の時は、水深5～6cmの深水としましょう。
- ・自然落水したまま田面が露出しているほ場が散見されます。こまめに見回りして適切に水管理をしましょう。
- ・生わらなど有機物を施用したほ場では、高温によりガスが発生することがあるので、時々落水して土中への酸素供給とガス抜きを行い、根腐れを防止しましょう。

（2）病虫害防除

①いもち病

- ・ほ場に補植用残苗が散見されます。いもち病の発生源になりますので、裏返すなどして直ちに処分しましょう。
- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、6月中下旬に水面施用剤を散布しましょう。
- ・「BLASTAM（ブラスタム）」が病虫害防除所のサイトで公開されていますのでご活用ください。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

【BLASTAM（ブラスタム）とは】

アメダスデータを基に葉いもち感染好適日を推定するシステムモデルです。いもち病の胞子が発芽、感染するためには次の条件が必要です。

- 1.葉面湿潤時間が 10 時間以上
- 2.葉面湿潤時間中の平均気温が 15℃～25℃
- 3.前 5 日間の平均気温が 20℃～25℃

これら 3 つの条件が全て満たされると、いもち病の感染に好適な条件となります。感染好適条件が連続し県内広域で出現した場合、約 2 週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。**水田を見回り発生に注意してください。**

（３）雑草防除

- ・残草した場合、雑草の種類、除草剤の散布期限（ノビエの葉齢や収穫前日数）を確認し、中後期剤の使用を検討しましょう。
- ・ヒエやホタルイ類の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せます。雑草の葉齢を確認して適切な剤を散布し、雑草が出穂する前の 7 月上旬までに防除しましょう。
- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、7 月中旬までにはほ場周辺の休耕田や土手・畦畔等の除草に努め、畦畔では雑草の穂が出ないように管理しましょう。

乾田直播栽培

今年度はこれまでのササニシキ乾田直播ほ場（以後、慣行）に加えて、化学肥料施用量と農薬成分数を「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」（以後、県認証）基準まで減らしたササニシキ乾田直播ほ場も生育調査していきます。

【県認証基準(乾田直播) 化学肥料(窒素成分)：6 kg/10a 以下 農薬成分数：8 成分以下】

（１）生育状況

6 月 10 日の生育調査では、慣行ササニシキは 210 本/㎡、県認証基準ササニシキでは 171 本/㎡で茎数は概ね確保されています。

管内では断続的な降雨の影響で播種作業等が遅れたほ場が散見されました。一方で降雨の影響で土壌処理剤の効果が持続し、碎土率が良いほ場では雑草が抑えられました。

表 4 6 月 10 日生育調査結果（乾田直播栽培）

品種	地帯	場所	播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)			茎数 (本/㎡)			葉色値 (GM値)		
					本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差
ササニシキ (慣行)	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/25	210.0	17.8	64.7	64	219.4	68.5	82	29.5	±0.0	-3.8
ササニシキ (県認証基準)	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/25	170.7	18.9	-	-	319.9	-	-	33.2	-	-

苗立ち数調査：慣行… 5 月 23 日、県認証基準… 5 月 26 日

※県認証基準ササニシキのほ場は、今年から調査を開始しているため平年値なし。

（２）今後の栽培管理

①雑草防除

- ・水田を見回って雑草の発生状況を確認し、雑草が小さいうちに除草剤を散布しましょう。除

草剤の選定に当たっては、雑草の種類や葉齢、使用時期（「ヒエ〇葉期まで」、「稲〇葉期以降」等）を確認し、適正に使用しましょう。

②水管理

- ・分げつを促進するため、水深 2 ～ 3 cm の浅水管理とします。
- ・低温（平均気温が概ね 14℃以下）の時は、水深 5 ～ 6 cm の深水としましょう。
- ・生育が過剰になると倒伏や病害の発生が懸念されるため、そのような場合は落水管理を検討しましょう。

5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し（6/5 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- 高温に関する早期天候情報が発表されており、6 月 15 日頃から気温がかなりの高くなる見込みです。
- 平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

◇熱中症に気を付けて安全な農作業を心がけましょう！

これから気温が高くなると、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

正しい知識を身に付け、熱中症を適切に予防しましょう！

- ・暑さを避ける…高温時の作業は極力避けましょう
- ・こまめな休憩と水分補給…水分補給は喉の渇きを感じる前に
- ・単独作業は避ける…複数名で作業を行い、連絡を取り合しましょう
- ・熱中症対策アイテムの活用…帽子や吸湿速乾性の衣服、空調服などを活用しましょう

■農薬危害防止運動が始まりました（令和 7 年 6 月 1 日から令和 7 年 8 月 31 日まで）

宮城県では、6 月から 8 月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認ができます。

<http://www.acis.famic.go.jp/ddownload/>

次回の稲作情報第 3 号は、6 月 20 日の生育調査結果をもとに 6 月 23 日頃の発行となります。